いわき民報

發行所 いわき民報社
平市田町四八番地 電話三八一番
編輯兼發行人 印刷人 千輝克巳
（但月曜を除く）
定價一月十五円一部五十錢

今曉仲町の火災

全燒七戸四棟 半燒二戸一棟
負傷二名、損害一五三萬圓

八日午前三時四十分頃市内仲町一八渡邊木工製作所（責任者渡邊宗直さん（三三））から發火、同製作所をたちまち全燒した上、隣接の綿打業野上二巳さん（二八）方等に延燒、七戸四棟を全燒、二戸一棟を半燒、同四時四十分鎭火した、罹災者中安齋正義さん（二六）は火廻りが早かつたので二階から飛降り足部に全治二週間の又野上ヌイさん（六七）は同じく飛降り背髄打撲の重傷を負つた、罹災者は左の通りだが附近には平市役所、公會堂、平警察署專賣局平出張所平土木監督所等の大建物もあり大騷ぎであつた、原因は渡邊木工製作所で夜業に使用した殘火の不始末損害は約百五十三萬円にのぼる

◉全燒 渡邊木工製作所渡邊宗直（三三）綿打業野上二巳（二八）無職安齋正義（二六）洋服仕立業坪山末吉（四七）工員高野ヨシ（五二）古物商笠野和一（四七）鐵工業三瓶嘉久也（五二）

◎半燒 自動車運轉手木村昇（二八）木工職笠井武（三二）

自家を顧みず職責果した野上消防員

類燒の厄にあつた、綿打業野上二巳さん（二六）は市常備消防員のため前夜來出番であつたので出火の報と同時に駈付け女子供の手のみで逃げるのが漸くの自宅の有様をみても顧みず他の消防員のすゝめも拒つて消防員の任務に服し最後まで職責を果し全消防團始め附近の人々の感謝と賞讃の的となつた

第三校着工機に 舊玉川との融和懇談

一路大小名濱の建設目指して

小名濱町では舊玉川の分村問題で揉みに揉んだ揚句、既報の如く町會の答申に基いて分村すべからずとの即ち現狀維持の縣指令も發せられ全く解決をみた一方、第三小學校建設も三崎組との請負契約が成り着工するばかりとなつたので、これを機に舊玉川分村派とも胸襟を開いて懇談和をはかり、縣案の大小名濱建設に一致協力邁進することゝし、第三校工事の手斧入れ始式を兼ねて小名濱町と舊玉川村側代表及び三崎組との三者合同懇談會を十日盛大に開催、遺憾なく意志の交換及び今後の町の執るべき方策その他について話合いを進めるので、その成果は非常に期待されている

常磐炭鑛職組協議

常磐炭鑛職組では八日湯本自治會館に協議會を開いて縣炭協脱退その他について協議、今後の方策等についても懇談した

自治法講習會

地方事務所では十日植田町十一日小名濱で又十二日は平市で地方自治法施行講習會を開く

獨自の增炭目標決る

最低六十五萬六千五百トンに

仙台商工局管内第三、四半期の最低出炭目標は復興會議の結果六十二萬七千二百六十四トと決つたが、これでは三千萬トの達成は出來ないので、管内各炭鑛と懇談の末、三千萬ト達成のために東北六縣獨自の最低目標を六十五萬六千五百トに置くことに決し、增産に拍車をかける事となつた

義捐金未届 十八ケ町村

地方事務所では一月平均五円ずつの水害義捐金の募集中のところ現在で十九萬七千七百四十九円に達したがまだ集らぬものが十八ケ町村あるので至急取りまとめるよう通達した

實業團對抗陸上競技

スポーツ連盟主催で九日磐女で

磐城スポーツ連盟主催、福島民報後援の磐城實業團對抗陸上競技大會は九日午前八時から磐女校庭に開く、種目は左の如くであるが、參加は吳羽化學、小名濱水素、大日本勿來鑛、常磐内鄕鑛、同湯本鑛古河好間鑛、品川白煉瓦、日曹赤井鑛、磐城セメント、戸部鑛、田邊製作所、平アスレチック、小田鑛、隅田川鑛等である

▲種目 百、四百、八百、千五百、五千メートル、八十米障害、走幅跳、三段跳走、高跳、砲丸、円盤投、八百米、繼走、新制中學女子四百米リレー、郡内バレ一對抗試合

中立鑛協議

十日本社ホール

縣下中立系炭鑛勞組では十日古河好間炭鑛ほか十二組合の本社ホールに協議會を開いて炭全協分裂に伴つて中立鑛の連絡協議會設置その他今後の鬪爭方針等々について打合せ懇談を遂げる

增子正見氏

前平公共職業安定所長增子正見氏は永らく病氣療養中だつたが、七日午後二時死去した行年六十二才、告別式は九日午後二時から自宅で執行する

いわき寸言

◎農相問題で内閣もグラツキの態、國民の支持もグラツキ申した

◎死せる孔明、生ける仲達を走らす、鬼貢死してなお警察を愚弄す？

◎食えぬ〳〵の話たまには食えた話もないかいナ……

觀光石城 めぐりわたしの故鄕 ふるさと 封切 ほか數編

一、日時 十一月十日午後六時半
一、場所 平第三小學校講堂

水害救濟基金募集 觀光映畫の夕

一、入場無料但し入場のお方は何分の御寄附を願ひます

主催 日本旅行倶樂部平班 和樂路會 磐城觀光協會 日本交通公社平事務所
後援 いわき民報社

父正見儀永らく病臥中のところ昨七日午後三時永眠致しました謹んでお報らせ致しますと共に故人の生前に賜りました御厚情に對し衷心より感謝申上げます追つて告別式は明九日午後二時より自宅にてとり行ひます

昭和二十二年十一月八日

平市磐城跡三〇ノ八

男 增子正宏
外 親戚一同

民報論壇

窓飾競技大會開催に就いて

いわき民報社が商店街の繁榮策にショーウインド競飾大會を開くことになり參加店が四十二も出來華々しく開導することはわれ〳〵商店の者としてばかりでなく一般からも好評である、その理由は戰爭で傷めつけられ荒れ果てた街の狀景と氣分をもとの張切つた明朗な商店街に早く立直つて欲しいと念願する人が甚だ多くそして斯うした大會が開かれることによつて多少でも商店街がよくなつて行くと信ずるからである

われ〳〵商業家の使命は現在においては配給品の配給と配給制限を受けない少しばかりの品物を賣買する丈にとゞまつているが、それにしてもこれ等の物の需要供給の關係において好い氣分の裡に取引賣買が行はれるとすれば、乏しき中にも逞しい日本再興の意氣が湧き出て來る筈である。斯うした空氣を醸成させる爲めにこの會は役立つものであつて恐らく御社の狙いも此處にあるものと思う、即ち本大會を通じてわれ〳〵商店の營業振りをよく大衆の方々に見て貰い認識を深めて戴くと共に商店としては戰爭中に培かはれた悪い癖「賣つてやる、配給してやる」主義の高踏的無愛想な態度を改めて商道實業精神に則つた眞實と親切心を發揮して顧客に滿足感を與え以つてお互い社會生活に香り高い文化生活を營むようにして行き度い、商業と云うものは原始社會には無かつた、高度の文化社會には消えて無くなる性質の存在だと説く者もある。然し實情から見てわれ〳〵はそうは思はない、商業はなお發るべき價値ある存在だと思つている、然し繁榮する爲には有能であり便利であると云うことが一般から認められなければならない、その爲めには顧客に對しより一層の勉强とサービスが必要である、顧客と不離一体の關係まで押し進めることが大切である

窓飾りは資材不足で企畫する構圖を充分滿たすことは困難であるが時正に錦しうの秋酣、紅葉と菊花に香る好氣、これ等のものと人工の美とを交錯した新時代に目ざめたよい飾りが展開されて街行く人の足をとゞめるよう、そして本大會を意義あらしめるように終らしめたいとこの一文を寄せた次第である（一商店主）

警視廳交通課監修
法規改正による
改訂版 自動車ブック
リー・ダイで
おなじみの店
さゝき・ほんや
角忠書店
本通二丁目
電一二八五

萬葉から古今へ

古今の讀人不知の持つ使命

5

千輝克己

以上述べた如く、萬葉から古今への階程は確かに見定める事は容易でないが、然しこゝに古今集中の讀人知らずの歌をもつて來ると成程と思はれる所がある。

現今國文學者の考えとしては、奈良朝末にやゝ衰退の色をみせた和歌は、平安朝の初期に於いて最も甚しく、いわゆる和歌の復活は古今集の出現をまつて初めて行はれたものといはれるのが普通である。その原因としては當時漢文學の隆盛であつたことを一つの理由として和歌はこれに壓倒されたとしている。この考へは一應尤も至極な事ではある。如何にも當時漢文學が隆盛を極めてそう〳〵たるし人が輩出したにもかゝわらず歌人としては何等聞えた人もない。然かも當時の作として指示する程の確かな歌もないのであるが、こゝに讀人知らずの詠をもつて來て當時の作とみたならば吾人は當時の歌人として名の顯はれた者もないのは古今集に讀人知らずとして載せたゝめと答え得る。然らば何故に讀人知らずとして載せられたかという事は原因が奈邊にあるか或は漢文學に壓されたゝめかも知れないが、兎に角歌の上から見て讀人知らずの詠に、古今集中署名の名歌に比して敢へて後へに落ちない位の名詠を多く發見するのである。即ち平安初期を目して和歌衰頽の極に達した時代というのは甚だ杜撰といはねばならない。

平安初期に立派な勅撰し集が出來ているのに對して、和歌は空しく古今集をまたねばならなかつたというのは、和歌が等閑に附せられていたという論據にはなるかも知れないが、等閑に附せられた事が直に和歌の衰頽を證するものとはならない。われ〳〵は讀人知らずの名の下に隠れた歌壇を一つの立派な時代と認める。そうしてこれが萬葉と古今との間に在つて、兩者の連鎖となつた時代と信ずるのである

ミシン
販賣・修理・部品
平二丁目シンガー
イシカワ

水害救濟基金募集 觀光映畫の夕

十日夜平第三小學校講堂で

日本旅行倶樂部平班（和樂路會）が交通公社平事務所とタイアツプ、本社後援で企畫作製した天皇陛下行幸記念、磐城の觀光地紹介の觀光映畫「わたしの故郷」は昨報の如く九日本社ホールで封切りするが、續いて十日午後六時半から和樂路會主催、本社並に交通公社平事務所、磐城觀光協會後援で、これを一般に第三小學校講堂で公開、入場無料ながら、入場者から應分の寄附を求めて、これを全部水害地の義捐金に贈ることに決した、待望の映畫であり又交通公社並に旅行クラブ本部からの觀光映畫數種も併せて上映されるので、早くも人氣を呼んでいる

―▶映畫紹介▶―

磐城觀光めぐり

わたしの故郷

あす本社ホールで

日本旅行倶樂部平班（和樂路會）の企畫、製作は旅行倶樂部岡崎映畫研究所—そのあら筋は加代子はやの叔父のすゝめに依つてお友達の光子さんを誘つて、夏休みを利用、久しぶりにふるさとへ一路上野をたつて平へと來た、丁度その日は盆で平地方は名物の盆踊りで賑つていた、それから四日間山に登り、海邊に遊び、鑛泉に疲れを慰めたりして余すところなく故郷の夏に親しみ、たのしみを満喫していた、遂に八月五日が訪れた、この日—それは天皇陛下が平地方へ初の行幸の日である、二人は何という幸運の旅行だつたでしょうと、さつそく陛下を奉迎しこの光榮と感謝を土產に故郷にサヨナラして再び東京に歸るといつたもので、この二人の乙女の遊びに平市の松ヶ岡公園を始め玉山、鑛泉新舞子、豐間の燈台、沼の内の賢沼、江名濱、小名濱、ヤマの街湯本、勿來の關、綴、川前の夏井川溪谷、赤井嶽、稻田、二ツ矢山等々の郡下の觀光地をみせ最後に湯本驛から平驛頭までの天皇陛下の行幸の感激の光景をおさめて幕となつている（全三卷）

防火運動の協議會

十日市公會堂で

いよ〳〵火災季となつたので市では十日午後一時から公會堂日本間に防火運動協議會を開く、當日は消防團、警察及び市當局の關係者ばかりでなく、同運動を全市民あげての強力な運動として徹底を期するため、各學校、工場、會社、官公廳、劇場、映畫館等々あらゆる部門の參集も求めて、その積極的な協力を要請することになつている

ガタ落した坑木生産

九月の一萬石減

郡下の十月の坑木並に一般用材の生産は九月の二萬二千石に較べ一萬二千四百八十四石とあつて、約一萬石の減、これは七月九月までの夏山增產の終了直後のためと農繁期に入つたのが祟つたもの、なお製材は八千百三十八石で九月と大差ない

レコード樂器類及びその附屬品
樂譜。ヤマハハーモニカ。ギター。木琴
御不用のレコード多少に不拘お譲り下さい
新品。中古品を問いません
蓄音器迅速に修理致します
有名化粧品シロップ文房具
サンスター煉歯磨代理店
平市四丁目 電268 山吉商店 纖維製品配給所

あらゆる百貨を凡ゆるサービスで
キット御氣に召す
百貨卸問屋
平市六丁目通（電四八五）
さかいや百貨店

ラジオと時計巡回修理奉仕

市内白銀町上原時計店では業者のいない山農村のためラジオと時計の巡回修理を左の日割で行うが、役場、學校、青年會その他引揚、戰災者には無料サービスする

▽川前村十日から三日間▽三阪村上三阪十四日から三日間▽下三阪十七日から三日間▽永戸村二十日から四日間

町財産處分折衝委員會

小名濱町有財產處分委員會で林の上一萬四千坪はいわし加工場に利用するので、業者と評價の出し合いをしたところ町側の坪二百円に對し、業者側は五十円を唱へその差が余りに甚しいので、双方から五名ずつの委員をあげて折衝を重ねることゝしていたので、いよ〳〵十日交渉會を開くことに決定した

灰皿

◎年中お客の絕えたことがほとんどない平署の昔は豚箱といつた、民主化の今日では留置場と申すところ、どんな風の吹きまわしか、四日はお泊りさん一人もなしのガラ空き

◎警察關係の聲音、手持ちぶさたに澄み渡つた空を眺めつゝ「秋はさびしいカ」……留置場だけはさびしくなくてはネエ……お巡りさん余りさびしがらないで下さい

女店員至急雇入度
一、高級優遇（住込可）委細面談
年令十八才—廿五才位 未經驗歡迎
平市田町（井坂病院前）
平麻雀倶樂部

失火お詫び廣告
八日午前三時四十分當工場の失火に依り市民各位に御迷惑をおかけし殊に類燒家屋を出しまして誠に申譯なく深く御詫申上げます
早速お駈付け消火に御盡力下さいまして拜顔御禮申上ぐべき處御芳名も洩れ有之取敢ず紙上で御禮かたがた御詫申上げます
渡邊製作所
渡邊辰治

類燒御見舞御禮
平市仲町 三瓶嘉久也

近火御見舞御禮
平市役所

近火御見舞御禮
山文商店
山田茂一郎

近火御見舞有難う御座いました
大和炭鑛株式會社
鈴木傳印
運輸部一同

近火御見舞御禮
平市仲町二番地
大井川鑛業所
大井川幸隆

近火御見舞御禮
平市第二十八區第一部
松崎宮子 鈴木健一郎 阿部スガ 遠藤正 大谷リヨ 下山円勁 松本保次 鈴木次郎 草野勝彌 北原清壽 山田茂一郎
大井川事務所 大槻金吾 池田スヱ 塚本金治 志賀博 伊坂角衛 渡邊トヨ 中鄉正明 磯部義江 丹野貞夫 佐川芳太郎
永山忠恭 小野豊 橋本清 大塚元一郎 安藤ムメ 山田勝己 新谷米吉 佐々木貞 大嶺庫 湯田恒吉